

西光

第20号

百橋山 西光寺
高岡市京町一〇一二五
電話 (〇七六六) 二二二二九七一
FAX (〇七六六) 二二二三二七〇
平成十八年十月八日

《歎異抄について》

親鸞の直弟・唯円が、親鸞滅後、その教えに異なる解釈が派生してきたことを嘆いて著した。唯円自身が直接親鸞から聞いた言葉を書き記し、親鸞の教えに沿ってその解説を展開し、異議を批判した。

しかし、この著書は長い間世に知られることがなかった。蓮如が筆写して以来、長く本願寺の書庫に秘蔵され、明治になってその存在が明らかになったが、当初はこの本の真偽を疑う向きもあった。しかし、現在では親鸞の法語を直接伝える書として認められている。親鸞の篤い念仏への信仰と深い想いが簡潔な直接話法で表現されており、恵信尼消息とともに、当時の念仏行者、親鸞の本当の姿を伺わせる貴重な証言でもある。

ことに人のみなよく知る有名な言葉は「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや。」の悪人正機の言説であろう。(第三章)

「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや。しかるを、世のひとつねにいわく、悪人なお往生す、いかにいわんや善人をや。この条、一旦そのいわれあるにたれども、本願他力の意趣にそむけり。そのゆえは、自力作善のひとは、ひとえに他力をたのむところかけたるあいだ、弥陀の本願にあらず。しかれども、自力のころをひるがえして、他力をたのみたてまつれば、真実報土の往生をとぐなり。煩惱具足のわれらは、いずれの行にても、生死をはなれることあるべからざるをあわれみたまいて、願をおこしたもう本意、悪人成仏



のためならば、他力をたのみたてまつる悪人、もつとも往生の正因なり。よって善人だにこそ往生すれ、まして悪人はと、おおせそうらいき。」

この親鸞の直接の言葉に、もはや解説を要しないであろう。人間一人一人が自らの自己反省の上に立って、行くべき道、たどるべき先を見出せということであろう。それくらい生死の道は厳しく、かつ身近な課題であったのである。しかし現代は長寿社会を迎え、長生きし、生きることが当然になってしまった。そのため、死なないことを前提に、生死の道を探るより、いかにして自分の迫り来る老いから目をそらせ、いかにして課題を先送りするか、いうことに執心しているようにも見える。

《仏前結婚式》

六月十一日 西光桜を愛する会の副会長である幸正哲氏の長男、幸正哲太郎君と敦子さんとの結婚式が西光寺阿弥陀堂の仏前にて厳粛に執り行われた。

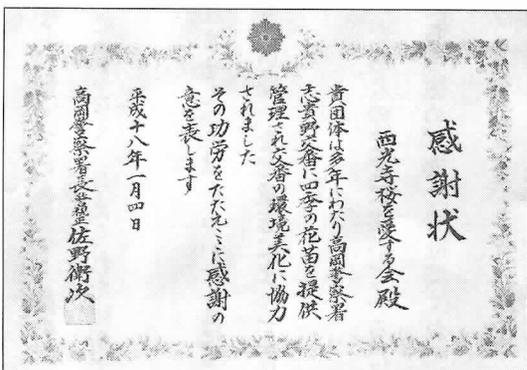
高岡郵便局に勤務する哲太郎さんと敦子さんが長年の交際を实らせたもの。引き続き披露宴も西光寺大広間で行われ、両家の親族をはじめ、友人達や西光桜を愛する会のメンバーが祝福した。

《高岡警察署から表彰》

今年一月四日、西光桜を愛する会が長年にわたり、熊野町にある志貴野交番に時節の花を欠かさず届けていたことに対して、高岡警察署から感謝・表彰状が贈られた。



仏前結婚式



感謝状

《菊まつり》

昨年十一月五日・六日、三百鉢の大輪の菊が境内に咲き誇った。西光桜を愛する会が、春から境内の一角で、難しい菊作りに挑戦して、丹精込めて世話をしてきたもので、厚物三本立てや玉作り、また懸崖作りなど、天候にも恵まれ、見事なできばえであった。多くの見物客が訪れ、気に入った菊を引き取り、しばらく各家庭で世話して鑑賞することとなった。また富山新聞社賞など各賞が贈られ、富山新聞にも掲載された。

今年も引き継いで菊作りが行われている。菊を希望する人は是非見物においでください。



富山新聞平成17年11月5日

《話題の本》

『ふっくらが 禅の言葉』 永井政之 永岡書店 平成十八年八月十日 四八六円

禅や茶道の言葉から、よく知られた簡潔な言葉を解説している。端的な名句は心に響く。納得して味わいたいものである。

(一例)

「百花春至為誰開」(『碧巖録』)の解説

…春いつせいに咲き乱れる野の花も、観賞用に植えられた花も、春の訪れを知らせよう

《行事予定》

と咲くわけではなく、人の心を和ませるために咲くわけでもありません。
 …花はただその生命のおもむくままに、無心に咲き、無心に散っていきます。誰のためでもなく、ためらいも不平もなく、そのすがたを誇ることもなく、与えられた場所で、ただありのままに精一杯咲くだけです。
 …人はあれこれとはからいながら生きることをやめられません。「はからい」とは考えや配慮のこと。「ああしたいこうしたい」「こうなるといいな」など意志によって行動することです。
 …花を見てごらん、そんな「はからい」も何もなく、ただありのままに咲いているだけに、みなそれぞれの色かたちで山野を彩り、私たちを慰め、楽しませてくれるではありませんか。
 …不平不満やちっぽけな「はからい」に惑わされず、ただ無心に生きることの尊さをこの禅語は教えてくれます。

- | | | | |
|------------|------------|------|-----------|
| 一月一日・二日・三日 | 修正会 | | |
| 一月八日 | 法話会 (初お講) | 〔講師〕 | 大寶寺 龍本茂樹師 |
| 三月八日 | 法話会 | 〔講師〕 | 大寶寺 龍本茂樹師 |
| 四月八日 | 法話会 | 〔講師〕 | 光専寺 葉室俊和師 |
| 五月八日 | 法話会 | 〔講師〕 | 大寶寺 龍本茂樹師 |
| 六月八日 | 法話会 | 〔講師〕 | 光専寺 葉室俊和師 |
| 七月八日 | 法話会 | 〔講師〕 | 大寶寺 龍本茂樹師 |
| 八月七日・八日 | 永代祠堂経会 | 〔講師〕 | 光専寺 葉室俊和師 |
| 八月十四日・十五日 | お盆 (旧盆) | | |
| 九月八日 | 法話会 | 〔講師〕 | 大寶寺 龍本茂樹師 |
| 十月八日・九日 | 報恩講 | 〔講師〕 | 教願寺 釜田哲男師 |
| 十一月八日 | 法話会 (終いお講) | 〔講師〕 | 光専寺 葉室俊和師 |
| 十一月二十七日 | 御正忌 | 〔講師〕 | 願浄寺 嶼 秀誠師 |
| 十二月三十一日 | 除夜勤行・除夜の鐘 | | |